

様式第7号ア（認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教員養成の目標等に関する書類）

（１）大学・学科の設置理念

大学

本学は、平成12（2000）年に「近畿福祉大学」として開学し、大学名称を平成20（2008）年に「近畿医療福祉大学」、平成25（2013）年に「神戸医療福祉大学」、令和4（2023）年に「神戸医療未来大学」へと変更して現在に至っている。開学以来「個性の伸展による人生練磨」を建学の精神に掲げ、社会福祉学を原点として心理学、健康・スポーツ科学、経営学等の領域へと教育内容を拡充することにより、これからの未来社会を力強くリードしていく人材を養成するべく、常に時代の変化や社会的要請に沿った教育活動を展開してきた。

現在の日本は、DX（デジタルトランスフォーメーション）の進展やSociety 5.0の到来に向けて大きな変革期を迎えている。このような時代にあって本学は、これまで培ってきた健康や医療などの領域を中心に、より広く人と社会に存在する課題を解決することで人類の未来の発展に資する人材の養成に当たることが必要であると考え。こうした目標を具現化するため、人間社会学部に未来社会学科・経営データビジネス学科の2学科、健康スポーツ学部に健康スポーツコミュニケーション学科の1学科を設置している。

学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

今回教職課程の認定を申請する「健康スポーツ学部健康スポーツコミュニケーション学科」の前身となる「人間社会学部健康スポーツコミュニケーション学科」は、平成23（2011）年に「社会福祉学部（令和2（2020）年4月より「人間社会学部」へ学部名称変更）福祉健康スポーツ学科」を改組して設置された。学科は、健康の重要性、スポーツの果たす役割と楽しさなどを、若年者や壮年者に限らず高齢者、障害者、子どもなどを含むあらゆる人に伝えることを通して、スポーツの科学的効果、および心身の発育発達や健康との関わりの実践に基づいた効果的な指導が可能な運動・スポーツ指導者を育成するとともに、多種多様な現場で生活の質（Quality of life）の維持・向上や健康の増進に寄与する人材を育成することを主要な目標と定め、教育研究活動を展開してきた。その中でも特に、学修において身につけた専門的知識や技術を他者に伝える（コミュニケーション）ための方法と実践力を修得することに重きを置き、学科にこれらの教育内容を反映した「健康スポーツコミュニケーション学科」という他に類を見ない名称を冠している点を大きな特色としている。このような健康、スポーツを通じたコミュニケーションという要素を特徴の中核として据えながら、あらゆる人々の健康を支え、スポーツの持つ力を社会で発揮できる人材を養成することを目指している。

こうした学科の教育内容のさらなる充実を目的として、人間社会学部健康スポーツコミュニケーション学科を母体とする健康スポーツ学部健康スポーツコミュニケーション学科の届出による設置を計画した。届出設置の受理を受け、令和6（2024）年度より人間社会学部から独立した新たな組織として教育研究活動を展開することとなった。

健康スポーツ学部健康スポーツコミュニケーション学科は、学科の人材養成の目的を以下のとおり定め、その目的に対応した教育課程を編成している。

健康・スポーツ分野における必要な知識と実践を修得し、自らが自主的に選択した専門領域のスキルを高め、教育分野の指導者のみならず生活の質の維持・向上のために幅広い年齢層を対象とした適切な健康・運動の指導ができる人材及びスポーツ関連企業等で活躍できる人材を育成することを目的とする。

健康スポーツ学部健康スポーツコミュニケーション学科の学科専門科目は、(1)健康スポーツ科学を体系的に修得するための基礎となる「学科コア科目」(卒業必修科目)、(2)ヘルスマネジメント分野の実践的内容に関する科目群を配置した「健康・医療領域」、(3)あらゆる領域のスポーツ指導者の専門性の中核となるスポーツ科学における実践的内容に関する科目群を配置した「スポーツ科学領域」、(4)健康スポーツ科学分野におけるデータサイエンスの基礎と実際を修得し、データを介したコミュニケーションスキルを身につけることを目的とした科目群を配置した「スポーツ情報領域」、(5)各自の興味関心に基づいた卒業研究に関する科目を配置した「総合科目」、(6)教職課程に連結した科目群を配置した「教職関連科目」の6領域により構成され、それぞれ体系的に科目を配置している。

その上で、建学の精神及び学科の教育目的に沿って設定した科目を履修し、以下のような能力を身につけ、所定の単位を取得した学生に学位の授与を認定することをディプロマ・ポリシーとして定めている。

(ア) 建学の精神である「個性の伸展と人生練磨」を理解し、自分の能力を伸ばし、生かす力を身につけている。

(イ) 4年にわたる教養及び学科専門科目の学修を通してさまざまな課題を発見し、それを科学的に分析解析する能力を身につけている。

(ウ) さまざまな人とのコミュニケーションに必要な能力や専門的な指導力を身につけている。

卒業後の進路としては、人々の健康増進とスポーツ振興に寄与する健康・医療・教育・福祉分野の専門職を主な将来像として想定するが、4年間の学修により身につけた課題発見能力と分析力、コミュニケーション能力や指導力により、上記の分野のみならず多種多様な職業やライフステージにおいて実践力を発揮することが期待できる。

(2) 教員養成の目標・計画

大学

本学は、建学の精神「個性の伸展による人生練磨」に基づき、学生一人ひとりが持つ優れた個性を伸ばすことを教育の根底となる目標として定めている。高等教育において伸展すべき「個性」とはすなわちアカデミックな専門性であるという認識の下で、すべての学部学科における教育研究活動を展開している。教員養成においても、教員に求められる広範な資質能力を身につけると同時に自らの得意とする専門性を高め、専門性に裏付けられた指導力とともに豊かな人間性を併せ持つ、「個性豊かな教員」を養成することを基本的な目標としている。

昨今、心理的・身体的・社会的に多様な状況下にある児童生徒たちの教育は複雑を極める。それらに十分に対応するためには、学修において身につけた専門的知識や技術を児童生徒や保護者、社会に伝えるコミュニケーション能力を有する教員の養成が求められる。本学ではこのような視座に立ち、平成23(2011)年度に社会福祉学部(令和2(2020)年4月より「人間社会学部」へ学部名称変更)健康スポーツコミュニケーション学科において高等学校一種免許状(保健体育)の教職課程を開設し、本学における教員養成を開始した。その後、地域社会や受験を希望する高校生、在学生から中学校教諭の養成に対して強い要望が寄せられるとともに、学内においては高等学校の前段階である中学校の状況に十分配慮し、中等教育を包摂した学修内容を構築する必要性が論じられるようになった。こうした要請に応ずべく教員養成課程としてのカリキュラムの充実と専門化を図り

、平成25（2013）年度に中学校一種免許状（保健体育）の教職課程を開設した。

学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

健康スポーツ学部健康スポーツコミュニケーション学科は、上述の通り健康・スポーツ分野において必要な知識と実践方法を習得し、専門領域のスキルを高め、幅広い年齢層を対象とした適切な健康・運動の指導ができる人材を育成することを目的としている。4年間に渡る体系的な学修を通して、単に運動やスポーツの指導ができるだけでなく、スポーツと心身の発育発達や健康との関わりについて十分に理解した指導ができるようになることを目標とし、得られた知識や実践力を基にして相手の気持ちを思いやり、コミュニケーション力に裏打ちされた効果的かつ分かりやすい指導が実践できる能力の伸展を図っている。

また、スポーツは健康状態や障害の有無などを越え、あらゆる人が楽しみ、その恩恵を享受することが求められる活動である。スポーツが持つこうした特徴を十分に体得するため、レクリエーションに関する科目（「レクリエーション基礎」「レクリエーション指導法」など）、アダプテッドスポーツに関する科目（「アダプテッドスポーツ論」「アダプテッドスポーツ指導法」「アダプテッドスポーツコミュニケーション演習」など）、社会福祉に関する科目（「医療と福祉のあゆみ」「障害者福祉」など）を配置するとともに、それらの一部を学科コア科目として位置づけることにより、スポーツを中心とした人と社会に関する理解を高めることを意図している点もまた、本学科の特色の一つであるといえる。

こうした学科の教育理念を踏まえ、健康スポーツ学部健康スポーツコミュニケーション学科における教員養成においても健康や運動、スポーツとそれらを取り巻く社会的な環境との関わりについて理解することでより専門性を高め、保健体育科の教科指導のみならず生徒一人ひとりの心身の健康的な成長に貢献できる、思いやりを持った教員の養成を目指している。

健康スポーツ学部健康スポーツコミュニケーション学科では、教員養成の具体的な目標を以下の通り定める。

- (1) 建学の精神「個性の伸展による人生練磨」に基づいた学修を通し、豊かな個性と人間性を身につけた教員を養成する。
- (2) 健康スポーツ分野における確かな知識と実践的指導力を高め、それらを他者に伝えることができる教員を養成する。
- (3) 地域社会におけるスポーツの役割、および生涯に渡って健康を維持するために資する知識を高め、それらを他者に伝えることができる教員を養成する。

（３）認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

【中一種免（保健体育）・高一種免（保健体育）】

中学校・高等学校の保健体育科においては、学修を通して生徒が「生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続し、スポーツとの多様な関わり方を状況に応じて選択するとともに、卒業後も継続して実践することができる」ために必要な知識や態度を身につけることを目標の一つと定めている。健康スポーツ学部健康スポーツコミュニケーション学科の目標および教育内容は、正にそれらに呼応する内容から構成されており、本学科に保健体育科の教職課程を設置する妥当性は十分に高いと考える。

また、健康スポーツ学部健康スポーツコミュニケーション学科は人々の生涯に渡る健康の維持増

進に寄与する人材を養成することを教育の主要な目標と定めているが、人格や社会性の発達期において学校教育を通して運動の合理的な実践に親しみ、運動の楽しさや喜びを味わい、心と体の健康を高めることの重要性を理解することが、その後の生涯に渡る健康を高める姿勢の礎となることは言うまでもない。こうした観点からも、健康スポーツ学部健康スポーツコミュニケーション学科において保健体育科の教員を養成することの意義は極めて大きいと考える。

本学では、上述の通り10年余に渡り中学校・高等学校保健体育科の教職課程を運営し、社会的要請に応え、中学生・高校生にスポーツや健康の重要性を伝えることを通して人々の健康増進に寄与する人材を養成してきた。この度、健康スポーツ学部健康スポーツコミュニケーション学科の設置に伴い、引き続き社会的要請に応えるべく、中学校・高等学校一種免許状（保健体育）の教職課程の設置を申請する。今後も本学の教員養成の基本理念に則り、本学科の特徴を活かして、優れた教育実践力を有する教員の養成を目指す。

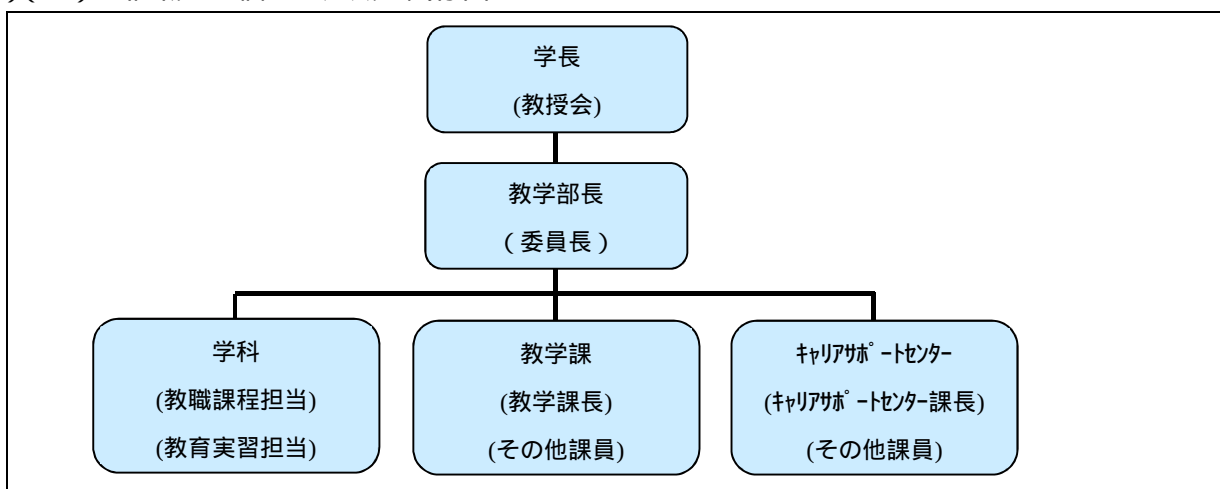
様式第7号イ

・教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

組織名称：	教職課程委員会
目的：	教職課程の運用に関する諸事項を審議し、教職指導の充実を図る
責任者：	教学部長
構成員(役職・人数)：	教学部長、学長から選任された教職課程委員(教職課程担当および教育実習担当・若干名)、教学課長、キャリアサポートセンター課長によって構成
運営方法：	教学部長を委員長とし、委員長の招集により1か月に1回程度定期的に開催する。また、実習前後や実習中の問題発生時など必要に応じて開催する。教育課程および教育実習の運営に関わる方針や問題点について協議する。

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図



・都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

現在のところ特になし

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

取組名称：	福崎町学童運動教室
連携先との調整方法：	健康スポーツコミュニケーション学科教員が福崎町保健センターの担当職員と連絡・調整を図り、実施する。
具体的な内容：	学童を対象として、運動や遊びを通して日常生活で不足しがちな運動能力や危険を回避したりする能力を養うとともに、健康と運動との関わりや運動の大切さを学ぶ取り組みを行う。学生スタッフとして学童への指導の補佐を行う。

取組名称：	福崎町親子運動教室
連携先との調整方法：	健康スポーツコミュニケーション学科教員が福崎町保健センターの担当職員と連絡・調整を図り実施する。
具体的な内容：	親子で一緒に運動しスキンシップを図りながら、運動の必要性や楽しさを再認識す

様式第7号イ

るとともに、親子ともに生活習慣の改善を図り、健康的なからだや生活づくりを目指す取り組みを行う。学生スタッフとして参加し、教員の指導補佐を行う。

取組名称： 出張講義（高大連携校等）

連携先との調整方法： 高等学校へ伺い科目担当教員と打合せ後、電話・メール等により連絡・調整を図り、実施する。
--

具体的な内容： 高校生に対し大学の知識を取り入れた講義、参加型実習を行う。

. 教職指導の状況

入学時のオリエンテーションにおいて、教職の意義について説明し、教職課程の履修について十分に指導を行う。履修カルテを用いて、1・2年次はクラス担任、3年次以降はゼミ指導教員との連携を密にし、教職課程担当教員が各学生の履修状況等を把握して学生の志望や適性を踏まえた教職指導を行う。
--

様式第7号ウ

<健康スポーツ学部健康スポーツコミュニケーション学科> (認定課程: 中一種免(保健体育))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	「スポーツ科学概論」「スポーツ指導者論」の学修を通して、学科の教育目標を達成する基盤となるスポーツ科学やスポーツ指導の根幹について理解するとともに、以後の学びへの動機づけを高める。「健康と運動の科学」では、心身の健康と運動・スポーツとの関連を理解する。教員として必要な教養を身につけるとともに、教員に共通して求められる普遍的な能力(外国語コミュニケーション力、情報機器操作のリテラシーなど)を修得する。
	後期	「コミュニケーション基礎」の学修を通して、コミュニケーションの基本と役割を学び、社会人として求められる基礎的能力を身につける。「生涯スポーツ論」では、生涯に渡って豊かなスポーツライフを継続することの意義と役割について理解する。
2年次	前期	「体育・スポーツ原論」「スポーツ社会学」などの学修を通して、体育やスポーツの意義や原理、役割や歴史などについて学ぶ。体育実技科目(「水泳・水中運動」「陸上競技」など)の学修を通して、基本的な示範能力や指導法を身につける。「保健衛生学(公衆衛生学を含む)」では公衆衛生や学校全体の衛生管理の概念および取り組みについて学び、保健領域の基礎理論を習得する。「教職概論」「教育原理」「教育制度論」の学修を通して、教員の役割や職務、教育の理念や教育の歴史や思想、教育の社会的・制度的・経営的制度について学び、現在の教育や学校が有する課題や問題点を把握するとともに、実践的な指導能力の基礎を涵養する。「保健体育科教育法」では、中学校・高等学校における保健体育指導の目的や内容、およびその方法の基礎を身につける。
	後期	「スポーツ心理学」や「教育心理学」において運動やスポーツが心理面に与える影響や生徒の心身の発達について学び、教科、クラブ指導あるいは学級経営において留意すべき点、具体的な指導法について理解する。また、「トレーニング論」「機能解剖学」などの学修を通して、スポーツ科学に立脚したトレーニング法や身体の構造について理解する。「教育課程論」では教育課程の趣旨や編成の方法を、「道徳教育の指導法」では道徳教育の理念や実際の取り組みについて学ぶ。「精神保健」の学修を通して、心の問題と心の健康を保つために有効な方法について理解する。前期に引き続き履修する「保健体育科教育法」では、中学校・高等学校における保健体育指導の実践について、演習を交えて学修する。
3年次	前期	「ICT教育の理論と方法」の学修を通して、教育の方法や技術を総体として理解するとともに、教育における情報機器の活用法を身につける。「学校保健」「救急処置法」では保健分野の指導に必要な事項および学校生活における安全管理について学修する。「バイオメカニクス」では身体の動きや働きについて力学的基礎知識をもとに理解する。「スポーツコーチング論」では、体育指導におけるコミュニケーション能力を高め、課題解決能力の向上を図る。「保健体育科教育法」では、中学校で行われる学習指導計画や学習指導案の作成の実際、教材研究の方法などについて修得し、次年度の教育実習に向けて必要な知識や技能を身につける。
	後期	「特別活動及び総合的な学習の時間の指導法」「生徒・進路指導論」「教育相談」「特別支援教育」などの学修を通して、教科指導外の教育活動や生徒指導、クラス経営の実際、特別支援教育の制度などについて理解する。前期より引き続き履修する「保健体育科教育法」では、これまでの体育・スポーツ、保健、教職の各分野の学びを統合しながら学習指導計画や学習指導案の作成および教材研究を進め、次年度の教育実習に向けた実地的な準備を進める。
4年次	前期	「教育実習(B)」では、これまでの学修を通して修得した内容を模擬授業などでさらに展開させ、教育実習が円滑に進むよう十分に事前指導を行う。教育実習では、実習校において指導教員の下で教科指導や生徒指導といった職務を実践することにより、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、保健体育科教員としての資質能力と実践的指導力を養う。実習終了後は、自らの教育実践について優れた点や反省すべき点について振り返り、今後の課題を確認する。
	後期	「教育実習(B)」では、後期に実習を受ける学生に対する指導を継続するとともに、実習報告会などを通して全体としての振り返りを行う。「教職実践演習(中・高)」では、これまでの教科および教職に関わる学修と教育実習での体験を踏まえ、ロールプレイングや事例研究、フィールドワーク、模擬授業など実践的演習を取り入れた授業を通して、保健体育科教員に求められる資質や能力を再認識させる。自らに欠けている部分や努力すべき部分についての気づきを促し、将来学校現場で必要とされる資質や能力の伸長を図る。

様式第7号ウ(教諭)

<健康スポーツ学部健康スポーツコミュニケーション学科>(認定課程:中一種免(保健体育))

(2)具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
年次	時期	各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
1年次	前期				日本国憲法	野外活動(キャンプ・登山)
					コンピューターリテラシー演習 基礎	人体の構造と機能及び疾病
					英語	スポーツ科学概論
					健康と運動の科学	スポーツ指導者論
	後期				生涯スポーツ	
					生涯スポーツ	バスケットボール
						エアロビク
						コミュニケーション基礎
2年次	前期	教育原理	体育・スポーツ原論			アダプテッドスポーツ論
		教職概論	器械運動(体づくり運動を含む)			アダプテッドスポーツ指導法
		教育制度論	陸上競技			レクリエーション基礎
		保健体育科教育法	水泳・水中運動			ニュースポーツ
			スポーツ社会学(スポーツ史を含む)			
			保健衛生学(公衆衛生学を含む)			
	後期	教育心理学	生理学(運動生理学を含む)			レクリエーション指導法
		教育課程論	スポーツ心理学			スポーツ医学
		道德教育の指導法	トレーニング論			栄養学(運動栄養学を含む)
		保健体育科教育法	サッカー			野外活動(ウインタースポーツ)
			バドミントン			
			ダンス			
			機能解剖学			
			精神保健			
3年次	前期	ICT教育の理論と方法	救急処置法			身体表現論
		保健体育科教育法	バイオメカニクス			体力測定評価演習
			スポーツコーチング論			スポーツ指導実習
			学校保健(小児保健・学校安全を含む)			レジャースポーツ
						野外活動(マリンスポーツ)
						健康運動指導法(有酸素運動)
						介護等体験
						卒業研究
	後期	特別支援教育	柔道			子どもの発達と運動
		特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	スポーツ経営学			スポーツ指導実習
		教育方法論				スポーツヘルスカウンセリング
		生徒・進路指導論				健康運動指導法(レジスタンス運動)
		教育相談				介護等体験
		保健体育科教育法				卒業研究
4年次	前期	教育実習(B)				アダプテッドスポーツコミュニケーション演習
						卒業研究
	後期	教育実習(B)				アダプテッドスポーツコミュニケーション演習
		教職実践演習(中・高)				卒業研究

様式第7号ウ

<健康スポーツ学部健康スポーツコミュニケーション学科> (認定課程:高一種免(保健体育))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	「スポーツ科学概論」「スポーツ指導者論」の学修を通して、学科の教育目標を達成する基盤となるスポーツ科学やスポーツ指導の根幹について理解するとともに、以後の学びへの動機づけを高める。「健康と運動の科学」では、心身の健康と運動・スポーツとの関連を理解する。教員として必要な教養を身につけるとともに、教員に共通して求められる普遍的な能力(外国語コミュニケーション力、情報機器操作のリテラシーなど)を修得する。
	後期	「コミュニケーション基礎」の学修を通して、コミュニケーションの基本と役割を学び、社会人として求められる基礎的能力を身につける。「生涯スポーツ論」では、生涯に渡って豊かなスポーツライフを継続することの意義と役割について理解する。
2年次	前期	「体育・スポーツ原論」「スポーツ社会学」などの学修を通して、体育やスポーツの意義や原理、役割や歴史などについて学ぶ。体育実技科目(「水泳・水中運動」「陸上競技」など)の学修を通して、基本的な示範能力や指導法を身につける。「保健衛生学(公衆衛生学を含む)」では公衆衛生や学校全体での衛生管理の概念および取り組みについて学び、保健領域の基礎理論を習得する。「教職概論」「教育原理」「教育制度論」の学修を通して、教員の役割や職務、教育の理念や教育の歴史や思想、教育の社会的・制度的・経営的制度について学び、現在の教育や学校が有する課題や問題点を把握するとともに、実践的な指導能力の基礎を涵養する。「レクリエーション基礎」では、レクリエーションの理念やそれを支える理論等について理解する。「保健体育科教育法」では、中学校・高等学校における保健体育指導の目的や内容、およびその方法の基礎を身につける。
	後期	「スポーツ心理学」や「教育心理学」において運動やスポーツが心理面に与える影響や生徒の心身の発達について学び、教科、クラブ指導あるいは学級経営において留意すべき点、具体的な指導法について理解する。また、「トレーニング論」「機能解剖学」などの学修を通して、スポーツ科学に立脚したトレーニング法や身体の構造について理解する。「教育課程論」では教育課程の趣旨や編成の方法について学ぶ。「精神保健」の学修を通して、心の問題と心の健康を保つために有効な方法について理解する。「レクリエーション指導法」では、レクリエーションの指導法の実践を修得する。前期に引き続き履修する「保健体育科教育法」では、中学校・高等学校における保健体育指導の実践について、演習を交えて学修する。
3年次	前期	「ICT教育の理論と方法」の学修を通して、教育の方法や技術を総体として理解するとともに、教育における情報機器の活用法を身につける。「学校保健」「救急処置法」では保健分野の指導に必要な事項および学校生活における安全管理について学修する。「バイオメカニクス」では身体の動きや働きについて力学的基礎知識をもとに理解する。「スポーツコーチング論」では、体育指導におけるコミュニケーション能力を高め、課題解決能力の向上を図る。「保健体育科教育法」では、中学校で行われる学習指導計画や学習指導案の作成の実際、教材研究の方法などについて修得し、次年度の教育実習に向けて必要な知識や技能を身につける。
	後期	「特別活動及び総合的な学習の時間の指導法」「生徒・進路指導論」「教育相談」「特別支援教育」などの学修を通して、教科指導外の実践活動や生徒指導、クラス経営の実際、特別支援教育の制度などについて理解する。前期より引き続き履修する「保健体育科教育法」では、これまでの体育・スポーツ、保健、教職の各分野の学びを統合しながら学習指導計画や学習指導案の作成および教材研究を進め、次年度の教育実習に向けた実際的な準備を進める。
4年次	前期	「教育実習(A)」では、これまでの学修を通して修得した内容を模擬授業などでさらに展開させ、教育実習が円滑に進むよう十分に事前指導を行う。教育実習では、実習校において指導教員の下で教科指導や生徒指導といった職務を実践することにより、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、保健体育科教員としての資質能力と実践的指導力を養う。実習終了後は、自らの教育実践について優れた点や反省すべき点について振り返り、今後の課題を確認する。
	後期	「教育実習(A)」では、後期に実習を受ける学生に対する指導を継続するとともに、実習報告会などを通して全体としての振り返りを行う。「教職実践演習(中・高)」では、これまでの教科および教職に関わる学修と教育実習での体験を踏まえ、ロールプレイングや事例研究、フィールドワーク、模擬授業など実践的演習を取り入れた授業を通して、保健体育科教員に求められる資質や能力を再認識させる。自らに欠けている部分や努力すべき部分についての気づきを促し、将来学校現場で必要とされる資質や能力の伸長を図る。

様式第7号ウ(教諭)

<健康スポーツ学部健康スポーツコミュニケーション学科>(認定課程:高一種免(保健体育))

(2)具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
年次	時期	各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
1年次	前期				日本国憲法	野外活動(キャンプ・登山)
					コンピューターリテラシー演習 基礎	人体の構造と機能及び疾病
					英語	スポーツ科学概論
					健康と運動の科学	
	後期				生涯スポーツ	
					生涯スポーツ	バスケットボール
						エアロビック
						コミュニケーション基礎
2年次	前期	教育原理	体育・スポーツ原論	レクリエーション基礎		ニュースポーツ
		教職概論	器械運動(体づくり運動を含む)			
		教育制度論	陸上競技			
		保健体育科教育法	水泳・水中運動			
			スポーツ社会学(スポーツ史を含む)			
			保健衛生学(公衆衛生学を含む)			
	後期	教育心理学	生理学(運動生理学を含む)	レクリエーション指導法		スポーツ医学
		教育課程論	スポーツ心理学	道徳教育の指導法		栄養学(運動栄養学を含む)
		保健体育科教育法	トレーニング論			野外活動(ウィンタースポーツ)
			サッカー			
			バドミントン			
			ダンス			
			機能解剖学			
			精神保健			
3年次	前期	ICT教育の理論と方法	救急処置法			身体表現論
			バイオメカニクス			体力測定評価演習
			スポーツコーチング論			スポーツ指導実習
			学校保健(小児保健・学校安全を含む)			レジャースポーツ
						野外活動(マリンスポーツ)
						健康運動指導法(有酸素運動)
						保健体育科教育法
						卒業研究
	後期	特別支援教育	柔道			子どもの発達と運動
		特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	スポーツ経営学			スポーツ指導実習
		教育方法論				スポーツヘルスカウンセリング
		生徒・進路指導論				健康運動指導法(レジスタンス運動)
		教育相談				保健体育科教育法
						卒業研究
4年次	前期	教育実習(A)				アダプテッドスポーツコミュニケーション演習
						卒業研究
	後期	教育実習(A)				アダプテッドスポーツコミュニケーション演習
		教職実践演習(中・高)				卒業研究